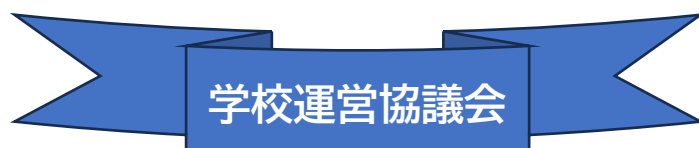


令和7年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	川東小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) コミュニティセンター センター長



1、地域と学校が共に目指している事

学校教育目標：人間性豊かで、主体的にたくましく生きる児童の育成

2、活動の内容

【第1回】 5月23日（金）授業参観後に実施

- ・昨年度末に配布した学校教育目標等について承認を得た。
- ・児童の学びの姿をもとに、教育目標との関連について熟議した。
- ・高松市生涯学習課担当者より、地域学校協働活動について説明を受けた。

【第2回】 11月26日（水）授業参観後に実施

- ・児童・保護者・教職員による学校評価の結果を報告し、学校教育目標との関連について熟議した。
- ・6年生による地域活性化に関する提案発表について、実現可能性を検討した。
- ・働き方改革の一環として、学校では対応が困難な保護者対応（過剰な苦情・不当な要求等）を地域コミュニティが支援する案について、協議会からの提案に基づき検討を行った。

【第3回】 2月18日（水）授業参観後に実施

- ・後期学校評価について報告し、学校教育目標との関連について熟議した。
- ・来年度の学校教育目標等について説明し、学校と地域双方の願いを整理した。
- ・来年度の校時表・校則・総会のあり方など、学校からの提案について承認を得た。

3、今年度の成果

- ・本年度は、学校運営協議会の協議内容を核として、地域学校協働活動と学校教育の充実を図る取組を進めた。
- ・第1回協議会では、生涯学習課担当者から地域学校協働活動の方向性について説明を受け、学校運営協議会としてどのように関わっていくかを正確に検討することができた。また、授業参観を通して児童の具体的な学びの姿を共有し、地域学校協働活動の在り方を実際の子どもの姿に即して考えることができた。
- ・第2回協議会では、6年生が地域活性化の提案を発表し、その内容が協議会で検討されたことで、川東コミュニティのキャラクターづくりが実現するという大きな成果につながった。
- ・対応が困難な保護者への対応については、学校と地域の役割分担を明確化し、地域コミュニティが支援する体制づくりに向けた具体的な検討が進んだ。
- ・各回の協議内容を教職員と共有し、それをもとに教育課程改善会議を行うことで、学校運営協議会の協議と教育課程改善の取組が密接に連動した。
- ・これにより、地域と学校の願いを踏まえた教育活動の具体化が進み、地域学校協働活動と学校教育が一体となった教育活動の充実が図られた。

4、次年度に向けての課題

- ・コミュニティの高齢化が課題として挙げた。PTA など若い保護者の参加を活性化するなど、コミュニティの文化や人的継承について考えていきたい。
- ・教育課程編成の際に、地域の方を招いてきたが、来年度は更に地域の方を増やし、地域に開かれた教育課程をめざしたい。

地域学校協働活動

コーディネーター

1. コーディネーターの主な活動内容

No	項目	内容
①	クリーンタイム	・ 児童・教職員・保護者・地域住民等による協働清掃活動。 ・ 従来、運動会前に PTA のみで土曜日に清掃活動を実施していたが、参加者の減少や、教職員による土曜日の出勤を避ける（働き方改革）ため、平日授業時間内に実施することに変更。 ・ 仕事を抱える親世代の参加は更に難しくなるものの、地域住民（防犯組織・女性団体・JA・他地域住民）が組織的に参加をすることで地域学校協働活動の事業として確立した。（R7 年実績：地域参加 65 名、学校参加 280 名）
②	児童によるまちづくり活動への参画・提言	・ 1 年生から 6 年生まで、年間を通じた総合学習を支援。 ・ 6 年生はその学習成果を踏まえ、まちづくり活動への参画として、自分たちで考えたまちづくり施策を地域住民等に対し、プレゼンテーションする場を設けている。 ・ R6 年テーマ：公園づくり、R7 年テーマ：まちの広報活動等 ・ コーディネーターとして、学校のカリキュラムマネジメントに参加し、協力できるコンテンツを擦り合わせている。

2. 苦労したことや、今後解決しようと考えている事

- ・ 当初は、『学校（子ども）のことは先生・親がやるもの』という意識があり、『なぜこの活動を（子どもの家族ではない）地域住民がやらなくてはいけないのか』という意見も出た。
- ・ その都度、地域学校協働活動は学校・子どもだけのためにやるのではなく、自分たちの目指すまちづくりの一環としてやっているのである、ということを根気強く説明し、定着させていった。

3. 成果・効果

- ・地域住民が学校を中心としたまちづくりは、自分たちのためのものであるという意識が定着しつつあること。
- ・学校からの相談が比較的フランクに来るようになったこと。

4. これまでの活動全般を通して感じていることや、今後の展望など

- ・学校運営協議会のメンバーがほぼ校区のコミュニティ協議会の主メンバーであることから、地域全体のとりまとめや展開が早いことが強みと考えている。
- ・学校の働き方改革を地域が全面的に支援するという姿勢を示すことで、学校からの信頼も得て、密なコミュニケーションが取れていると感じています。

学 校

1、成果・効果と今後の見通し

・ 地域と共に行う「教育課程編成会議」では、教員が思いや願いを伝えると、地域の方が具体的な支援案を考え、スピーディに形になっていった。地域と共通認識のもと、総合的な学習の時間を中心に児童が地域を知り、地域に誇りをもち、発信したり参画したりする場につながった。

・ 地域との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力や社会性、主体性が向上した。

・ 児童が地域づくりに参画していくことで、地域が活性化し、児童に再度課題を提示していくという循環が生まれた。

・ 地域の高齢化が進んでいる。持続可能な活動になるよう地域と保護者を繋いでいく必要性を感じている。

2、廃止、見直した取組

① 歌舞伎の学校公演

平日であり、歌舞伎保存会のメンバーが集まらず困難。龍っ子フェスティバルの公演に合わせて毎年1、3年生が必ず見るように変更（5年生までに全員が見ることがするため）

② 敬老会（土曜日）の廃止（令和8年度より）

歌舞伎の発表が1回減るのを懸念。記念品を取りに来る3日間のうち金曜日に公演が決定（①の平日分を移動）